命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

（金曜日――午後の部）

メッセージ　6

命の経験の第四段階（5）
キリストの身の丈の度量に満ちている

聖書：ヘブル 6:1．エペソ 4:13, 16．コロサイ 2:7．雅 4:8．6:13．7:8

Ⅰ．わたしたちはキリストの身の丈の度量に満ちていることについて語るとき、わたしたちが意味するのは、キリストにあるわたしたちの命が完全に円熟した領域へと到達したということです――ヘブル 6:1：

Ａ．命の成長とは、わたしたちの内側におけるキリストの身の丈の度量の増し加わりです。

Ｂ．わたしたちは、神聖な命において成長して、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量に到達する必要があります――エペソ 4:13。

Ⅱ．もしわたしたちが霊的な身の丈の度量（キリストの身の丈の度量）に欠けているなら、建造されてキリストのからだとなることはできません――コロサイ 2:7．エペソ 4:16：

Ａ．コロサイ第 2 章 7 節の「建造されながら」という言葉は、キリストのからだの建造を直接的に指しているのではありません。この表現が意味しているのは、わたしたちの霊的な身の丈の度量の増し加わり、すなわち、わたしたちの内側におけるキリストの身の丈の度量の増し加わりです。

Ｂ．わたしたちが建造されるということは、まずわたしたちが召会、からだとして建造されることを意味するのではありません。そうではなく、わたしたちが主の中で建造されて、わたしたちが身の丈の度量の増し加わりを経験するということを意味します。

Ｃ．からだの建造は、すべての信者の個々の個人的な建造にかかっています。わたしたちは建造された肢体となったとき、からだの中で他の人たちと建造されることができます――エペソ 4:16．コロサイ 2:7。

Ⅲ．わたしたちの内側でのキリストの身の丈の度量の成長には、五つの段階があります：

Ａ．キリストがわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となります――ヨハネ 1:12-13．3:15．Ⅰヨハネ 5:11-12．コロサイ 3:4。

Ｂ．キリストがわたしたちの中で生き、わたしたちの中で徐々に成長します――ガラテヤ 2:20．エペソ 4:15。

Ｃ．キリストがわたしたちの内に形づくられます――ガラテヤ 4:19。

Ｄ．キリストがわたしたちの中にご自身のホームを造り、わたしたちを通して現されます――エペソ 3:17．ピリピ 1:20-21 前半。

Ｅ．キリストがわたしたちの中へと入り、わたしたちの中で生き、わたしたちの内に形づくられ、わたしたちの中にご自身のホームを造り、わたしたちを通して現される

ことの結果は、わたしたちがキリストの身の丈の度量に満ちて、キリストの豊満の身の丈の度量に到達することです：

1．わたしたちの存在のあらゆる部分は、キリストの要素で満たされます。このようにして、キリストはわたしたちの中で円熟し、わたしたちはキリストの身の丈の度量に満ちています――エペソ 3:19。

2．これが、過去の永遠において神が計画し、意図したことです。それは、キリストにある信者が、キリストの身の丈の度量に満ちている人になることです――1:4-5。

Ⅳ．キリストの身の丈の度量に満ちている経験は、以下のいくつかの重要な点を含んでいます：

A．キリストの身の丈の度量に満ちていることは、個人的な事柄ではなく、団体的な事柄、からだの事柄です――4:13, 16：

1．個人的にこの段階に到達することのできる信者はいません。この経験は、からだの中でのみ達することができます。からだだけが、キリストの身の丈の度量に満ちていることができます――13, 16 節。

2．もしわたしたちが、天然の構成が砕かれることを経験するなら、からだを見ます。また、からだから離れてはわたしたちは生活することができず、クリスチャンであることさえできないこと、そしてわたしたちの霊的な命と経験はからだの中にあることを認識します――コロサイ 2:19。

B．キリストの身の丈の度量に満ちているということは、わたしたちがキリストの命と性質に満ちていることを意味します――ガラテヤ 4:19．エペソ 3:17．Ⅰテサロニケ 5:23：

1．信者の命の経験が最高峰に到達するとき、キリストの命と性質は彼の存在の内側の各部分に浸透しています――エペソ 3:17。

2．わたしたちの思い、感情、意志が十字架によって対処されれば対処されるほど、砕かれれば砕かれるほど、命を与える霊としてのキリストはさらにこれらの各部分の中へと入ることができます。最終的に、わたしたちの思い、感情、意志のすべての要素はキリストとなり、キリストの身の丈の度量はわたしたちの中で完全に成長します――Ⅰコリント 15:45 後半。

C．信者はキリストの満ち満ちた身の丈の度量に到達するとき、客観的な事実においても、経験においても、キリストと同じ地位にあります――エペソ 2:6．コロサイ 3:1-3：

1．キリストは天に座しており、御座に着いています。円熟した信者も天に座しており、御座に着いています――エペソ 1:20-21．ヘブル 1:3．啓 5:6。

2．キリストご自身が天において揺り動かされないのと同じように、キリストの身の丈の度量に満ちていて、彼の地位にあずかっている人も、揺り動かされません――エペソ 1:20．2:6。

D．キリストの身の丈の度量に満ちている人は、キリストと共に王として支配します――ローマ 5:17, 21．Ⅱテモテ 2:12：

1．キリストの命の中で円熟した人だけが、キリストと共に王として支配することが

できます――ローマ 5:10, 17, 21。

２．命は円熟するとき、王として支配することができます。わたしたちの命がキリストの満ち満ちた身の丈の度量に達するとき、わたしたちはキリストと共に王として支配することができます。

Ｅ．キリストの身の丈の度量に満ちている人は、キリストと共に敵を対処します――ヘブル 2:14．ピリピ 2:9-11：

１．わたしたちがキリストの身の丈の度量に満ちているとき、またわたしたちの命が完全な円熟に到達しているとき、わたしたちの霊的戦いは終わっています。なぜなら、わたしたちはすべてのものよりもはるかに高い、勝利の地位に座しており、敵を対処する必要があるだけであるからです――雅 4:8。

２．わたしたちがキリストと共に敵を対処する段階に到達するとき、それは、わたしたちの命が最高峰に到達し、わたしたちがキリストの身の丈の度量に満ちていることの証拠です。

Ｆ．クリスチャンの命がこの段階に到達するとき、彼の存在のあらゆる部分は円熟に達しており、携え上げられてキリストと共に栄光の中へと入るのを待っています――啓 12:5．14:1。

Ｖ．雅歌は、個々の信者のキリストとの愛の交わりが進展する経験を描写して、主を愛する人がどのようにしてキリストの身の丈の度量に満ちるようになるかを啓示しています―― 1:9．2:2, 14．3:6-7, 9．4:12．6:4, 10, 13．7:1, 8, 11．8:1-5 **前半**：

Ａ．彼女は召されて、キリストと共に昇天の中で生きています。また彼女は神の聖なる所として、美しいことテルザのようであり、愛すべきことエルサレムのようであり、恐ろしいこと旗印を持った軍隊のようです―― 4:8．6:4。

Ｂ．彼女は、超越した天的な状態へと到達しており、また天的な光体へと造り変えられています。彼女は夜明けの光のように見え、月のように美しく、太陽のように明るいです―― 10 節前半。

Ｃ．キリストを愛する者は、キリストの命において円熟し、シュラムの女となります。これが表徴していることは、彼女がキリストの複製と複写になっており、彼にふさわしくあり、彼と結婚するということです―― 13 節．啓 19:7-8。

Ｄ．彼女はなつめやしの木にたとえられます。これが示していることは、彼女の円熟した身の丈の度量において、彼女がキリストの身の丈の度量の豊満を持っているということです――雅 7:8．エペソ 4:13。

Ｅ．シュラムの女は、一つの場所から別の場所へと寄留して、愛する方と共に彼のからだのために働くことによって、愛する方と共に、全世界のための働きを完成することを願います――雅 7:11．エペソ 4:12。

Ｆ．キリストを愛する者は、成長と造り変えを通して、命において円熟します。そして神の定められた御旨を完成するために、彼女の望みは、体の贖いを通して携え上げられることです――雅 8:1-5 前半．啓 12:5, 7-11．14:1, 4 後半．19:7。

務めからの抜粋：

キリストの身の丈の度量に満ちている

わたしたちはキリストの身の丈の度量に満ちていることについて語るとき、わたしたち

が意味するのは、キリストにあるわたしたちの命が完全に円熟した領域へと到達したということです。わたしたちが以前に述べられた命の学課をすべて真に経験しているなら、キリストの命はわたしたちの中へと完全に造り込まれています。この時、わたしたちはキリストの豊満の身の丈の度量に満ちるでしょう。

わたしたちの内側でのキリストの身の丈の度量の成長は、五つの段階に分けることができます。第一に、キリストがわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となります。第二に、わたしたちの内側で聖霊を通して生きているキリストは、わたしたちの中で徐々に成長します。第三に、キリストがわたしたちの内に形づくられます。第四に、キリストがわたしたちを通して現されます。キリストがわたしたちの中で成長し、形づくられ、表現されていくと、ある日わたしたちの存在のあらゆる部分が彼の要素で満ち、わたしたちは第五段階、すなわち、キリストがわたしたちの中で円熟する、あるいはキリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることに到達します。この時、キリストにあるわたしたちの命の経験はその最高峰に到達しています。

すべての救われたクリスチャンは第一段階、すなわちキリストが彼らの中へと入って彼らの命となる経験を持っています。もしだれでもこの第一段階を経験していないなら、彼は救われておらず、それに続く命の経験を語ることができません。第二段階、すなわちキリストがわたしたちの内側で生きて成長することに関して、すべての追い求めるクリスチャンはこの経験の過程にいます。第三段階、すなわちキリストがわたしたちの内に形づくられることについて、多くの人はこの段階に達していません。キリストがわたしたちを通して現されるという第四段階にわたしたちが来るとき、さらに少数の人しかそれを経験していません。最後に、第五段階、すなわちキリストがわたしたちの中で円熟し、わたしたちが彼の命の中で円熟し、彼の身の丈の度量に満ちることについては、今日、地上のすべての召会でこの経験を持つ人が見いだされることはまれです。ですから、キリストの身の丈の度量に満ちているというこの学課で、わたしたちが言い得ることはあまりありません。わたしたちはただいくつかの主要な点を挙げて、それらを簡単に論じます。

からだの中で

キリストの身の丈の度量に満ちていることに関して、わたしたちはまず、だれも個人的にこの段階に到達することができないことを認識しなければなりません。この経験は、ただからだの中でのみ到達することができます。それは完全にからだの中で獲得される経験です。

肉と天然の構成が砕かれることを経験したクリスチャンは、自動的にキリストのからだを見ます。この時以後、彼は自分の経験から、キリストのからだから離れては生活することができないこと、主の中で生きることも彼の臨在に触れることもできないことを深く認識します。もし彼がキリストのからだから引き離されるなら、クリスチャンであることさえできません。ですから、キリストのからだを見た時から、主の命の中で円熟するまで、彼の霊的な命はからだの中にあり、また彼のすべての霊的な経験もからだの中にあります。ですから、彼がキリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることは、からだの中の経験でもあるのです。

だれもからだの外でキリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることを経験することが

できないだけでなく、実際的に言えば、からだの中でさえ、だれも個人的にキリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることはできません。キリストの豊満の身の丈の度量に満ちているのはからだの事柄です。ですから、からだだけが、キリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることができるのです。

キリストの豊満の身の丈の度量に満ちていることは、聖書でただ一度、エペソ人への手紙第 4 章 13 節で述べられています。この箇所で、著者は個々の聖徒を指しているのではなく、むしろある日キリストのからだ、すなわち召会が、そのような段階に到達するという事実を指摘しているのです。エペソ人への手紙第 3 章 18 節で、キリストの広さ、長さ、高さ、深さを会得するために、わたしたちはすべての聖徒たちと共にいることを必要とすることを見ます。わたしたちはこの二つの聖書の引用から、キリストの豊満の身の丈の度量とキリストの計り知れない大きさが経験されることができるのは、わたしたち自身によって個人的にではなく、からだの中にあって、すべての聖徒たちと共に結合されることによってであることを見ます。

ですから、簡単に言うと、クリスチャンの命の円熟はからだの中で起こります。わたしたちは決して、個人的に命の円熟に到達することができると期待すべきではありません。事実、人はからだを見るとき、もはや単独であることはできません。

キリストの命と性質に満ちている

内容に関して、キリストの身の丈の度量に満ちているということは、わたしたちがキリストの命と性質に満ちていることを意味します。人の命の経験が最高峰に到達するとき、キリストの命と性質は彼の存在のあらゆる部分に浸透しています。彼の霊の異なる部分と彼の魂の思い、意志、感情がキリストの命と性質で満たされます。彼の物質の体さえ、時には霊からのこの力によって支えられます。（クリスチャンは今日、体の中でキリストの完全な要素に満ちていることはまだできません。これはわたしたちが携え上げられ、変貌させられてはじめて到達することができます）。この時、彼の命は円熟に至ります。

わたしたちの間で主を信じて何年にもなるのに、今日に至るまでキリストの要素が彼らの中にわずかしかない人たちが多くいます。彼らの思考は大部分、彼ら自身で満たされています。彼らの思考の中には汚れや腐敗はわずかしかありませんが、キリストもわずかしかありません。これはまた、彼らの思考の中にキリストの身の丈の度量がごくわずかしかないことを意味します。彼らの意志に関して、神に反逆し、神に反対することはなく、何の間違っていることもないように見えますが、内側の要素は大部分、彼ら自身のものであって、キリストのものはごくわずかしかありません。彼らの感情、気分、願望、傾向に関して、責められるところがないかもしれませんが、まだキリストの要素で満たされていません。これは、彼らの内側のキリストの身の丈の度量が満ち満ちた度量に到達していないこと、そして彼らが霊的な成長においてごくわずかしか進歩していないことを証明します。

わたしたちはどのようにして、徐々にキリストの命と性質で満たされることができるのでしょうか？　わたしたちは、人には三部分、すなわち霊、魂、体があることを知っています。霊は中心であり、体は外側の周囲であり、この二つの間に魂があります。わたしたちが再生されたとき、キリストはその霊としてわたしたちの霊の中へと入ります。この時から、彼はわたしたちの内側で生きて成長します。まず彼はわたしたちを霊の中で満たし

ます。次に彼はわたしたちの霊から外側に、すなわちわたしたちの魂の中の思い、感情、意志に広がります。彼は十字架を用いて、わたしたちの自己と天然の構成、すなわち、特にわたしたちの思い、感情、意志の中にある魂の命を対処します。わたしたちの思い、感情、意志が十字架によって対処されれば対処されるほど、砕かれれば砕かれるほど、命を与える霊としてのキリストはさらにこれらの各部分の中へと入ることができます。ある時点で、わたしたちの思い、感情、意志のすべての要素がキリストとなります。その時、キリストの身の丈の度量はわたしたちの中で完全に成長します。

この時、わたしたちの思いのすべての考慮、観念、考え、見解、わたしたちの感情のすべての喜怒哀楽と傾向、意志のすべての判断、決定、意図、選択が、キリストの要素で満たされます。わたしたちの思いはキリストの思いのようであり、わたしたちの喜びは彼の喜びであり、わたしたちの意図は彼の意図です。言い換えれば、わたしたちが考えるとき、キリストが考え、わたしたちが喜ぶとき、彼が喜び、わたしたちが意図するとき、彼が意図します。この時、わたしたちの内なる存在のあらゆる部分が十字架によって対処されており、自己や天然の構成の余地がなくなります。すべての地位はキリストに与えられています。わたしたちは、わたしたちの全存在がキリストの命と性質で満たされていると言うことができます。これをわたしたちは命の円熟、あるいはキリストの身の丈の度量に満ちていると呼びます。

キリストと同じ地位にあずかる

人はキリストの満ち満ちた身の丈の度量に到達するとき、客観的な事実においてだけでなく、経験においても、キリストと同じ地位にあります。キリストは天に座しており、彼もそうです。キリストは御座に着いており、彼もそうです。この時、彼は容易に揺り動かされませんし、容易に倒れることはできません。

キリストご自身が天において揺り動かされないのと同じように、キリストの身の丈の度量に満ちていて、キリストと同じ地位にあずかっている人も、揺り動かされません。彼は場所や時のゆえに変化することはありません。どんな環境に出会っても、彼は天に座したままであり、変わることがありません。彼はキリストと同じ地位にあずかります。これがキリストの身の丈の度量に満ちている人の状態です。

キリストと共に王として支配する

キリストの身の丈の度量に満ちている人のもう一つの状態は、キリストと共に王として支配することです。彼は命が円熟するために、キリストと共に王として支配する地位に到達しなければなりません。わたしたちは命の中で円熟しているかどうかを知ることを願うなら、わたしたちの霊的生活の中で王として支配することができるかどうかを確かめるべきです。わたしたちは六歳の子供に支配するのを求めることはできません。たとえわたしたちが彼に王冠をかぶせて治めさせ、あらゆるものを彼の統治に従わせたとしても、彼は走り去って野球をするでしょう。命が十分でないなら、王として支配する可能性はありません。人の命が円熟に到達するとき、彼は自動的に王として支配します。雅歌の女を考えてください。彼女の内なる命が夜明けの輝きようになり、月のように美しく、太陽のように明るくなってはじめて、彼女は自分の威厳を現し、旗印を持った軍隊のように恐ろしい

ものになったのです（雅 6:10）。もし人が超越した天的な状態に到達していないのに、自分には経験があり高い地位に立っていると主張するなら、ただ自分自身の栄光と力を見せびらかしているだけであり、それは醜い見せびらかしであって、確かに王として支配することはありません。ですから、王として支配することは地位の事柄だけでなく、命の事柄です。王として支配するために、人は地位を必要とし、それにもはるかにまして命を必要とします。

これはただ霊的な命についてそうであるだけでなく、肉体の命についてもそうです。子供によってなされた声明は、あまり意義がありません。同じ状況で、同時に、同じ声明が大人によって語られるとき、いくらかの重みがあり、七十歳か八十歳の年長者によって語られるとき、さらに重みがあります。言葉の重みは年齢にしたがって測られます。ある年齢に達すると、言葉は深みを持ちます。同じように、権威は命に基づいています。命は円熟するとき、王として支配することができます。ですから、王として支配する経験は命における円熟にかかっています。

民数記第 17 章で、アロンに権威が授けられていることを証明するために、神は彼の杖に芽を出させ、花を咲かせ、アーモンドの実を結ばせました。この芽を出すこと、花を咲かせること、実を結ぶことは命の物語です。杖は権威を代表します。十二本の杖のうちで、一本だけが芽を出し、実を結びました。これは、命の円熟した人だけが王として支配することができることを証明します。

わたしたちの命が円熟と豊満に到達するとき、わたしたちは携え上げられ、変貌させられます。その時、わたしたちはキリストと共に座に着き、彼と共に王として支配します。わたしたちであるすべてはキリストの豊満の身の丈の度量に満ち、わたしたちが行なうすべてはキリストと共に王として支配するためです。同じ原則が今日、命の円熟にあてはまります。わたしたちの命がキリストの満ち満ちた身の丈の度量に達するとき、わたしたちはキリストと共に王として支配することができます。

キリストと共に敵を対処する

キリストの身の丈の度量に満ちている人の別の状態は、キリストと共に敵を対処することです。敵を対処するとは戦いをすることです。しかしながら、わたしたちはここでは「戦い」という用語を用いるべきではありません。なぜなら、それは命における完全な円熟の意義を伝えていないからです。わたしたちが真にキリストの身の丈の度量に満ちているとき、またわたしたちの命が完全な円熟へと達しているとき、わたしたちの霊的戦いは終わっています。その時わたしたちはすべてのものよりもはるかに高い、勝利の地位に座しており、敵を対処する必要があるだけです。

それは主イエスが戦いをされたのと同じ過程にあります。彼は務めの開始における誘惑の時から、絶えずサタンと戦いました。しかし彼は御座に昇ったとき、戦いをやめました。それにもかかわらず、彼は敵を対処し続け、ついに敵は彼の足の下に従わせられ、彼の足台となります（ヘブル 1:13）。わたしたちがキリストと共に敵を対処する段階に達するとき、それは、わたしたちの命が最高峰に達していることの証拠です。

勝利者は、戦う必要がありません。彼が行なう必要があることはただ、ある場所に座していることです。その時、すべての盗人やこそ泥は完全に消えて、もはや愚かに行動し、

邪悪さ行なわなくなるでしょう。彼の畏敬の念を抱かせる評価は、過去における多くの戦いを通して獲得されました。この実例は、敵を対処することにおけるキリストの原則を明らかにします。もしキリストも彼の御名も今日この宇宙になかったなら、サタンはさらにどれほど凶暴であるかを想像してください！　キリストが今日、敵を対処しておられるので、キリストの御名が高く上げられる所ではどこでも、敵は逃げ、暗やみの力が消えます。

ときどきわたしたちは同じ原則を、召会の中や働きの中で見ます。より深い命を持った人が一人、あるいはそれ以上いる限り、召会の中や働きの中で問題はほとんど起こり得ません。しかしながら、いったんこれらの人たちが去ると、多くの問題が起こります。これは、彼らが権威の中にあって、キリストと共に敵を対処しているからです。彼らがそこにいることが敵を征服します。それは対処の必要がないかのようですが、実際は彼らのいることが対処です。ですから、敵を対処することは戦うことよりもまさっています。

クリスチャンの命がこの段階に到達するとき、彼の存在のあらゆる部分は円熟に達しています。彼は携え上げられてキリストと共に栄光の中へと入るのを待っています。聖書は収穫物の刈り取りを用いて、聖徒たちの携え上げを例証します。収穫物が熟すとき、刈り取られるばかりになります。ですから、わたしたちは携え上げの事柄を単に予言と考えるべきではありません。携え上げは命の事柄です。召会の命、あるいは聖徒たちの命が絶えずキリストの中で成長し、円熟していくとき、ある段階でそれは完全に熟し、主の目に、この世の畑から天の納屋へと刈り取られるばかりになります。これは主の再来の時、召会の携え上げの時に起こります（啓第 14 章）。わたしたちは携え上げられるとき、主によって彼の栄光の中へともたらされ、彼と共に栄光を享受します。こうして、神の救いの目的は成就されます。

ですから、クリスチャンの命の経験がキリストの満ち満ちた身の丈の度量に達するとき、それは最高峰に到達します。彼はキリストと共に同じ地位にあずかり、キリストと共に王として支配し、敵を対処します。彼の全存在はキリストの要素で満たされます。体がまだ栄光の体へと変貌させられていない事実以外に、他のすべてはその最高の、あるいは最終の点に到達しています。キリストにある聖徒の命の経験は、こうして終結に至ります。携え上げられて栄光へと入ることを待つほか、願うべきことは何も残されていません。（命の経験（後編）、第 19 編）